

説教 「復活の証人として生きる」

申命記 18 章 18-22 節 使徒言行録 3 章 11-15 節

2020 年 11 月 15 日主日礼拝
日本基督教団仙川教会
大串 肇 牧師

ペトロとヨハネが「第 9 時」すなわち午後 3 時（新共同訳）に、1 日 3 回のうち、午後の祈りの時にエルサレム神殿を訪れました。「美しい門」と呼ばれていた神殿の東側敷地内の門で、参拝者に施しを求めていた人物が友人たちに運ばれていました。彼は生まれながら足が不自由でまったく動けなかったのです。するとペトロは「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」（3:6）と語り、その男を癒しました。すると、彼は「躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し」ました（8 節）。「金や銀はない」というのは、ペトロたちがお金をまったく持ち合わせていなかったということではありません。ここでは金品よりも重要なものがあることが強調されています。それは「イエス・キリストの名」であり、それによって今奇跡が起きたのです。イエス・キリストの「名によって」とは、神に授かった権威や力において、という意味です。こうしてこの奇跡によって、イエスこそ、救い主であり、キリストであることが示されたのです。

しかしこの奇跡に対してユダヤ人たちは「非常に驚き」（11 節）、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいたペトロたちのところに大勢集まってきました。。彼らは誤解していました。彼らはペトロたちが何か特殊な力でこのような奇跡を起こしているのではないかと思ったのです。

そこでペトロが彼らに応えました。ペトロが「民衆に言った」（12 節）と新共同訳聖書にはあります。実際は、たぶん、大声で叫んだ、あるいは強い抗議をなしたという意味にも取れます。ペトロたちは、「自分の力」や「信心」でもなく、その奇跡を起こされたのはまさにイエス・キリストを通して神ご自身がお働きになられた、と宣言したのです。

キリストに力と権威を授けたのは神ご自身です。そこでペトロは、わざわざユダヤ人の先祖代々の呼び名である神の名「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」という、伝統的な名称を引き合いに出して言いました。つまり彼らの神、イスラエルの神がその僕であるイエスに「栄光を与えた」（13 節）ことを強調するのです。パウロはこの神の救いの御業に対してユダヤ人たちがおかした罪を明確に述べました。ユダヤ人たちはイエスをローマ帝国に「引き渡し」ました。ローマ総督ポンテオピラトが釈放しようとしていたのにもかかわらず、この「聖なる正しい方」であるイエスを「拒み」（13 節）、人殺しであったバラバに恩赦を与えさせました（14 節）。こうして彼らはイエスという「命の導き手」を殺してしまったのです。イエスを「引き渡し」「拒否し」「殺害した」という一連の行為こそまさに福音書で語られているイエスの十字架の出来事です。彼らが十字架に付けたのは自分たちを「命」に導くはずの救い主だったのです。まさに神のご意志に背き続けてきた罪の悲惨な結果でした。

ここで「命の導き手」という言葉が用いられています。エジプトで奴隷状態であったイスラエルの人々を神はモーセを通して救い出しましたが、そのモーセのこと

を思い起こします。先ほど読んでいただいた申命記には、神はやがてモーセのような預言者を遣わして人々をお救いになると約束されていました。使徒言行録は、イエスこそ新しきモーセであると告げているのです。というのは、イエスはモーセのようですが、モーセ以上の存在です。モーセはイスラエルを奴隷から解放しましたが、イエスは全人類を罪の奴隷から解放して下さったからです。神の御子であるイエスはそのご自身の命を捧げられ、わたしたちの罪をすべて赦して下さったのです。これがまさにイエスの栄光でした。イエスが罪と死に対して勝利したことこそ、イエスの栄光です。その栄光を決定づけた出来事がイエスの復活です。これも神の御業なのです：神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。（15 節）

ペトロが足の不自由な人を癒した奇跡も、徴に過ぎませんでした。イエスこそキリストであり、神は十字架について死んだ神の僕であるイエスを復活させ栄光を賜ったのです。このキリストの十字架と復活の出来事は、わたしたちのためになされた神の愛の御業です。その愛を信じる者は誰も皆、罪と滅びから救われ、キリストの証人となるのです。キリストの約束の言葉を思い起こします。

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる（使徒 1:8）

わたしたちは、時が良くても悪くてもわたしたちはキリストの証人として十字架と復活の福音を地の果てまで宣べ伝えてまいりたいと願います。